

小 松 市 教 育 委 員 会 会 議 録							
会 議 名		令和元年第6回小松市教育委員会定例会					
開 会 月 日		令和元年6月3日（月）		場 所	教育長室		
会 議 時 間		（開会）午後1時30分～（閉会）午後2時17分					
休 憩 時 間		①（休憩）午前・午後 時 分～（再開）午前・午後 時 分 ②（休憩）午前・午後 時 分～（再開）午前・午後 時 分					
委員の出席		教育長	石黒 和彦	出席	委員	北村 嘉章	出席
		委員	吉原 慎吾	出席	委員	中惣 恭子	出席
		委員	勝木 克子	出席	出席委員 4名 欠席委員 0名		
出席説明者	教育次長 吉田 均		出席	シニアマネージャー 道端 祐一郎		出席	
	未来の教育課兼教育研究センター所長 中谷 光恵		出席	図書館長兼南部図書館長 山本 裕		出席	
	教育庶務課長 東谷 勝美		欠席	教育庶務課 専門官 唐木 和也		出席	
	学校教育課長 廣田 恵子		出席	市立高校 事務長 三ツ橋 薫		出席	
	青少年育成課長 松野 真弓		出席	ひととものづくり科学館 副館長 浅野 幸恵		出席	
	図書館副館長 山崎 みどり		出席	教育庶務課 参事 中屋 清志		出席	
書記							
傍 聴 者		0 名					
会議に付した議題	【議案】						
	議案第17号 令和元年度優良PTA会員小松市教育委員会表彰被表彰者について						
	(青少年育成課)						
	【報告事項】						
	・教育相談概況について（教育研究センター）						
	・令和元年度小松市教育委員会研究指定校等について（学校教育課）						
	・令和元年度小松市立小・中・高等学校運動会日程について（学校教育課）						
	・食育推進事業について（学校教育課）						
	・彰化市への青少年訪問団の派遣について（青少年育成課）						
	・ひととものづくり科学館イベントについて（ひととものづくり科学館）						

教 育 委 員 会 報 告

令和元年6月3日

【議案】	
議案第17号 令和元年度優良PTA会員小松市教育委員会表彰被表彰者について	
所 管 部 課 名	青少年育成課
内 容	小松市立学校PTA連合会より被表彰者5名の推薦。5名は次のとおり（詳細は資料参照）。 ・道場 幹雄（会長経験者） ・奥 貴至（役員3年以上経験者） ・野村 佳史（役員3年以上経験者） ・江口 充 （役員3年以上経験者） ・忠谷 千鶴（顕著な活躍。母親委員長1年，副会長1年）
教育委員等の意見	特になし
	議案第17号 承認
【報告事項】	
件 名	教育相談概況について
所 管 部 課 名	教育研究センター
内 容	平成30年度，教育研究センターにおいて実施した教育相談。詳細は次のとおり。 ・教育相談件数 307件（相談延べ回数 4,879回） 対前年 件数 21.3%増，相談回数 33.3%増 ・主な相談内容 不登校（主に中学生），発達に関すること（主に小学生） ・相談時期 6月，10月，11月に相談件数が増加。 ・訪問相談 不登校児童・生徒が外部機関とのつながりを持つ目的で平成30年度より実施。 12人を対象に実施し，11人が外部とのつながりを持つことができた。 ・ふれあい教室 児童，生徒の学校復帰，社会への自立を目的に実施。平成30年度は53人が通室（対前年 77%増）。また，完全不登校生徒が毎日通室を続け，高校進学を果たした。

教育委員等の意見	【中惣委員】 不登校対策として、「ふれあい教室」以外の選択肢は。 また、何処の機関（学校、教育研究センター）にもつながりを持ってない児童、生徒の割合はどのくらいいるのか。 【石黒教育長】 訪問相談の方法は。 【北村委員】 社会とのつながりを持ってない人が多くなっているため、早期に対策を行うことは非常に重要と考えているため、ふれあい教室、訪問相談は大切な事業である。
回 答	【中谷教育研究センター所長】 居場所づくりとして「ふれあい教室」を設けている小中学校がある。 毎月実施している不登校調査において人数は把握している。 訪問相談は、学校・教育研究センターと連携して実施。教育研究センターが先行して行うことはなく、学校を通し対象児童、生徒の家庭に確認を取ったうえで相談員が訪問。 訪問相談は、本人との関係も重要であるが、保護者との信頼関係構築が重要であると昨年度実感した。
件 名	令和元年度小松市教育委員会研究指定校等について
所 管 部 課 名	学校教育課
内 容	・今年度、新たに次の学校を研究校として指定。 学力向上パートナーシップ（算数・数学） 串・日末小、御幸中 英語科授業づくり 南部中 体力向上 符津小 ・研究大会が次の3校で実施。 小学校道德教育研究大会 今江小 国語教育研究大会 芦城中 生活科研究大会 串小
教育委員等の意見	【北村委員】 研究大会は会場提供なのか、研究を行っているか。 研究指定は非常に重要だが、研究に費やす時間、労力は非常に負担となるのではないかと考えている。教員が希望した研究なのか、また、研究指定校はどのように決定されるのか。 教員の負担とならないよう、また、本来業務に配慮した研究指定を行って欲しい。 学校からの提案等による研究の状況は。

回 答	【廣田学校教育課長】 小学校道德教育研究大会は、今江小学校教員を中心に研究を行い、今江小学校教員が授業を行う。 国語教育研究大会は小中合同の研究大会。会場は芦城中学校。小学校は稚松小学校、中学校は芦城中学校の教員が研究を行い、それぞれ授業を行う予定。 生活科研究大会は、研究・会場ともに串小学校が実施。 国語教育研究大会は、教育会と連携し指導案を作成しているため指定校教員での負担は軽減されている。また、生活科研究大会も教育会との連携により市内小学校の担当教員の協力のもと実施する予定。 テーマを決めて主体的に研究を行っている学校はある。
件 名	令和元年度小松市立小・中・高等学校運動会日程について
所 管 部 課 名	学校教育課
内 容	9月に実施予定の運動会については、航空自衛隊小松基地主催の航空祭と開催時期が重複することがなく実施する予定。
教育委員等の意見	【北村委員】 運動会を春、秋に実施する学校にわかるが、それぞれに実施する効果は。 本市の卒業式は平日開催。他市町村では土曜日に卒業式を行う学校もある。本市で土曜日に開催することを検討したことはあるのか。ないのであれば土曜開催も検討して欲しい。
回 答	【廣田学校教育課長】 秋は地域行事が盛んなため春に変更した、合宿など学校が重点的に取り組みたい行事を秋に実施できるなどの地域事情や学校運営により春に運動会を実施している学校もある。
件 名	食育推進事業について
所 管 部 課 名	学校教育課
内 容	昨年度、中学校において実施した「子どもたちが考える給食献立事業」を小学校において実施。 栄養士が配属されている小学校5校で栄養士と児童が献立を考案する。 また、東京オリンピック・パラリンピックホストタウン国にちなんだ料理を給食に取り入れる。7月はカナダ料理を市内全小中学校において提供。10、12、1月にもホストタウン国にちなんだ料理を提供する予定。

教育委員等の意見	【北村委員】 給食献立事業における「地場産物」とは。小松市産なのか地域産なのか。 オリパラ献立では、ホストタウン国の料理を食べるだけでなく、国によって異なる食べ方、マナー等も学ぶことが重要ではないか。
回 答	小松産を基本に考えている。地域産も視野に入れているが、「子どもたちが考える給食献立事業」では子どもたちが食べたいと考えた献立の中から実現可能なものを提供することを目的にしている。 オリパラ献立についての情報提供は、写真、映像など工夫を行うことを検討したい。
件 名	彰化市への青少年訪問団の派遣について
所 管 部 課 名	青少年育成課
内 容	平成 29 年度から実施しており今年度で 3 回目の派遣となる。これまでは高校生のみを対象としていたが今年度より中学生まで対象を拡大。中学生 2 名、高校 5 名を派遣。派遣期間は 7 月 31 日から 8 月 7 日までの 8 日間、現地での国立高校の生徒との交流を中心に活動する予定。
教育委員等の意見	【中惣委員】 派遣する中学校、高校生の学校は何処か。
回 答	【松野青少年育成課長】 中学生は、丸内中学校、松東中学校から各 1 名。 高校生は、小松市立高校、小松明峰高校から各 1 名、小松大谷高校から 3 名。
件 名	ひととものづくり科学館イベントについて
所 管 部 課 名	ひととものづくり科学館
内 容	国立極地研究所副所長榎本氏による「極地の大自然 壮大な景観とそのしくみ」と題したプロフェッショナルトークを 6 月 23 日（日）に開催。
教育委員等の意見	特になし
【その他】	
件 名	次回教育委員会議日程について

内 容	日時：7月18日（木）午後1時30分 場所：小松市役所 6階 教育長室
【教育委員からの意見・提言】	
北村委員	特になし
吉原委員	高校生の交通マナーが悪く，中学生が危険な状況となっている場面を目にすることがある。
	----- 【石黒教育長】 該当する高校へ申し入れを行いたい。
中惣委員	特になし
勝木委員	不登校対策に引き続き取り組んで欲しい。